

2017年11月1日（水）発行

プレスリリース

TOKYO MX
東京メトロポリタンテレビジョン株式会社

関係各位

2017年11月1日 開局記念式 会長・社長 挨拶

東京メトロポリタンテレビジョン株式会社（TOKYO MX 東京都千代田区）は、11月1日（水）に開局22周年を迎えました。

これにあたり、本日開局記念式を行い、代表取締役会長・後藤亘、代表取締役社長・河内功が、社員に向けてそれぞれ次のように挨拶しました。

【挨拶】後藤 亘 代表取締役会長

「TV 新時代に向かって第一歩を！」

開局22周年を迎えるにあたり、もう一度TOKYO MXの在り方、目指す方向をじっくり考えなければならぬと思います。3年後は、当社開局25周年の年、東京オリンピック・パラリンピック開催の年でもあります。その時こそTV業界の大きな転換点に直面することになるでしょう。その対応策を整理して検討することを今やらなければならないと思います。

わが国は戦後72年を迎えましたが、その内約30年間（1960～1990年）の多年に亘り経済成長を続けて参りましたが、この20年間は、時代の流れが大きく変化しつつあります。情報通信の世界のみならず、総ての産業に知らず知らずの内に価値観の変化が起こっているのではないのでしょうか。以前にお話したことがあります。経済価値優先の時代から、文化価値優先の時代に移行していく必然性が見えてきています。人間の欲求がどんどん変化し、車社会の発展はスピードや姿・形よりも、もっと実用性を重視し能率のいい運ぶ道具としての価値を求めてしまいます。また、食料・衣類・生活用品などもどんどん求めるものの変化しているのです。

江戸文化の繁栄は、あの時代のすさまじい経済発展と人口増加があり、その後人口増はなく、その時代に人間の頭脳の働きが、芸術・スポーツなどのカルチャーへシフトされています。いま、あの時と同じような時代を迎えているとは申しませんが、人々の価値観が少しずつ変化しており、アメリカ型から北欧型への価値観が生まれて来る可能性は高いと思います。

文化論を長々と話すつもりではありませんので、現在の当社の課題に戻します。総論は別として、各論に入ると当社は今、この6年余に及び画期的な成長を達成して参りました。それは、役員・社員全員の成果であり、本当に深く感謝申し上げなければなりません。しかし、当社にはまだまだ成長するノリシロが沢山ありますが、今年は、営業も編成・制作も苦勞しております。これは、次の成長へ向っての自己研鑽の時でもあり、新しい提案の創出に懸命に挑戦しているものと見ております。下期から来期にかけて、更に5年後に向けて大きな期待ができるものと確信しております。そして、現実として視聴率アップと広告収入アップの可能性は高いと思います。私も皆さんに負けないう努力し、皆さんと共に未来のMX像を築き上げていきたいと思っております。その為にはまず「200の壁から300への壁」、そして「5から10への壁」を越えましょう。

【挨拶】河内 功 代表取締役社長

開局 22 周年おめでとうございます。

皆さん日々の業務を通じ実感していることと思いますが、当社を、社会を取り巻く環境の変化のスピードは、その激しさを増しています。特にインターネットを中心としたデジタル技術の進化が、テレビを含むメディア全体の構造を大きく変えています。

デジタル技術の進化はコンテンツ制作技術の向上などプラス要因となる一方、インターネットメディアの普及で従来のテレビ視聴時間が減少するなど、旧来のテレビにとってはマイナス要因にもなっています。

当社はこのデジタル技術の進化によってもたらされたデジタル放送開始の機会を捉え、第一次構造改革である「売上倍増計画」を断行・達成し、現在は第二次構造改革である、「質」「量」「運営システム」「文化」の改革に取り組んでいます。

先ほど会長のお話にあったように、テレビ業界の大きな転換点を迎えるにあたって、改めて皆さんに意識してもらいたいのは、この4つの視点のうち、特に「質」の構造改革です。

「質」の構造改革とは、魅力ある番組の制作・編成、アニメ事業、通販事業、番組連動型イベントといった質の高いコンテンツを開発し、当社ならではの営業戦略、運営体制、顧客対応力をもった質の高い営業を推進すること。また、新たに手がける事業においても「何をするか」と共に、選別し、創意工夫することで、事業性の確保をはかっていくことです。これは、当社の全ての事業分野における共通の課題です。

こうして「質の向上」にチャレンジし、実現することが業容の拡大、すなわち会長のお話にあった「壁」を超え、全ての事業分野での持続的な成長につながると確信します。

そして、忘れてはならないのが、当社の「存在価値」という「質」です。先日、タレントの稲垣吾郎さんが「5時に夢中！」に緊急生出演し大変な反響を呼びました。特色ある番組を制作・放送していること、東京のテレビ局であること、という「強み」が活かされた好事例です。日頃忘れがちな我々が持つ「宝」、すなわち「東京に存在する」というアドバンテージを活かし、他のメディアから「差別化」し、「強み」を活かした事業を強力に推進することも、「質の向上」であると言えます。

開局記念日を迎えて、皆さん一人ひとりには、あらためて今、取り組んでいる業務を見つめ直してほしいと思います。この1年を振り返ってみると、当社の放送に対する世論の反応・反響や、情報セキュリティの課題など、マスメディアとして、引き続き更なる「質の向上」に取り組む重要性を認識する出来事がありました。

ひとつひとつの業務の「質」をどうしたら向上できるか考え、実行に移していただきたい。それが、今後も引き続き、視聴者やクライアント、すべての関係者に信頼され評価される、存在価値の高いメディアとして、さらなる発展を続ける礎になると考えています。全社一丸となって取り組んでいきましょう。

本件に関するお問い合わせ
TOKYO MX 編成局編成部